

教諭班グループ別研修

研究テーマ 「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫

～遊びの中にある資質・能力を読みとって～

教諭班は、3歳児・4歳児・5歳児の学年別と預かり保育の4グループに分かれて、研修を行った。各小グループでは、自己課題や持ち寄った教材研究の資料をもとに保育実践を紹介し、情報交換をした。また、次回の研究方法について共通理解をした。助言の園長先生からは、グループ協議の内容や歳児別の保育についての指導やアドバイスをいただき、研修を深めることができた。

《学年別グループ》

＜3歳児＞

- ・安心した環境づくりや幼児理解の悩みについて話し合い、3歳児にとって、どんな遊びも初めての経験になり、“楽しい”と感じられる教材や素材の工夫が大事であると学んだ。
- ・手遊びや触れ合い遊びの楽譜を紹介し合い、簡単な動きのものが親しみやすく、遊びやすいことが分かった。

●助言者御指導（抜粋）

- ・3歳児の保育は基礎づくりの1年であり、基本的な生活習慣を身に付ける時期である。そのためにも幼稚園と家庭との連携が大切である。
- ・保護者との信頼関係を築くためには、担任が保護者の話に耳を傾け、受容する姿勢が大切である。子供が幼稚園に楽しく通うことが保護者にとって嬉しい事であり、安心感につながるので、子供が“楽しい！幼稚園に行きたい！”と思える保育を目指してほしい。
- ・教師自身が環境であり、教材であることを意識し、遊びのモデルになったり、用具の扱い方を知らせたりしていくことが大切である。
- ・教師がねらいをもち、何を大切にしていけるのかを意識して保育することや笑顔で遊びを楽しむことが子供たちにとって、よい環境となっていく。

＜4歳児＞

- ・4歳児の用具の出し方や扱い方について話し合い、環境を出すタイミングや教師の関わり方で遊びが変化していくことを学んだ。
- ・遊びの経験を、どのような表現活動につなげたかを紹介し合うことで、自分自身の遊びの引き出しが増えた。
- ・個別支援の仕方や少人数での保育の仕方について、自園の取り組みや自身の考えを伝え合い、課題を共有した。
- ・自身の保育から子供に合ったと思われる遊びの情報交換をした。

●助言者御指導（抜粋）

- ・3学年の真ん中で目立ちにくい学年ではあるが、年長の真似ができることや、年少時に経験をしたことを自分なりに形を変え、試すことができるため、楽しい学年である。1年間子供たちの思い付いたことや発見したことを一緒に楽しんでいくとよい。
- ・少人数学級でも、一人一人が感じていることや思いが違う。その子が感じていることを探り、思いを出せるようにしていくことで、一人一人の思いの出し方が変わっていく。
- ・子供たちが“やってみたい”と心を動かし、主体的に遊ぶためには、環境を出すタイミングを常に意識していく必要がある。また、子供に寄り添い、気持ちを丁寧に読み取ることが大切である。



<5歳児>

- ・資料をもとに絵画の紹介をした。どんな題材をどんな用具を使って表現したのかを情報交換することで、今後の参考になった。
- ・各園の指導計画をもとに今後の遊びを予想し、ねらいの共通理解を図った。遊びを通して、“友達と意思を出し合う”姿をねらい、保育を進めていきたい。
- ・年長としての育ちについて意見交換をする中で、1学期ではあるが就学に向けての課題についても話し合いが出来た。

●助言者御指導（抜粋）

1学期の保育において大切なことがいくつかある。

①色々なものに出会うようにしていく。

色々な素材や材料を使うことで面白さや試しにつながっていく。つくることの面白さ、つくったもので遊ぶ楽しさが次への体験へつながっていく。

②友達とのつながり、関わりが強くなるような経験をしていく。

皆でしたことが目に見えるよさ、個の努力が認められる遊びやゲームを取り入れていくとよい。一人一人の存在が活かされ、競う楽しさや自分の貢献度がチームに返っていく。

③自分で考えて気付き、動ける方向付けをしていく。

困っている友達の姿に気付かせ、具体的な動きは子供に考えさせていく。

④人がいて、自分がいる面白さを感じさせる経験をしていく。

個々のアイデアを認め、友達のよさに気付けるような声掛けをしていく。

⑤人の話に耳を傾けて聞く経験をつくっていく。これらを大切にし、資質・能力の基礎を育めるよう日々保育を進めていくことが大事である。

<預かり保育グループ>

・同じ預かり保育でも、環境や実態、地域差があり、様々な取り組み方があったことが分かった。情報交換をすることで、取り組み方や遊びの環境構成など参考になった。今後の運営に活かしていきたい。

・実践の持ち寄りがあり、参考になることが多い。預かり保育は、情報も少ないことから、様々な情報交換の場があると助かる。



●助言者御指導（抜粋）

・22園に預かり保育があり、年間の実施日や実施時間等、園によって多少異なる。昼寝の時間設定については、昼寝の有無や時間の長さなどを保護者や園長・職員と相談し、弾力的に対応していくことがあってよいのではないかと思います。生活リズムが整った上で、朝登園し、通常の保育時間を元気に過ごすことが大切である。

・年長児が年下の子の世話をしたり、関わって遊んだりすることが、異年齢保育の中で育ち合いにつながることを、常に意識していくことが大切である。

・預かり保育の場で、温かく丁寧な関わりがあるからこそ、生活習慣が身に付いたり、その子にとって拠り所となったりする。そのような温かさを感じられるようにするのも預かり保育の役割である。

・各園の地域の実情を踏まえ、園の実態に合った預かり保育を展開して欲しい。

